

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5302767号
(P5302767)

(45) 発行日 平成25年10月2日(2013.10.2)

(24) 登録日 平成25年6月28日(2013.6.28)

(51) Int.Cl.

G02C 5/14 (2006.01)

F1

G02C 5/14

請求項の数 3 (全 6 頁)

(21) 出願番号	特願2009-117530 (P2009-117530)	(73) 特許権者	506293580
(22) 出願日	平成21年5月14日(2009.5.14)		有限会社 梅田
(65) 公開番号	特開2010-266659 (P2010-266659A)		福井県越前市横住町28-28
(43) 公開日	平成22年11月25日(2010.11.25)	(74) 代理人	100087169
審査請求日	平成24年5月11日(2012.5.11)		弁理士 平崎 彦治
		(72) 発明者	梅田 秀美
			福井県越前市横住町28-28 有限会社
			梅田内
		審査官	井海田 隆

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ツルが格納されるメガネ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

フロント部の両側にツルを折畳み出来るように取付けたメガネにおいて、該ツルの長さはフロント部の幅寸法の1/2以下とし、該フロント部の背面にはリムの形状に沿って凹溝を形成し、この凹溝に折畳まれたツルが嵌ることが出来るようにしたことを特徴とするツルが格納されるメガネ。

【請求項2】

折畳まれて凹溝に嵌ったツルを引き出す為に、ツル先端部にはツマミテープなどのツマミ部を取付けた請求項1記載のツルが格納されるメガネ。

【請求項3】

フロント部の中央に位置する連結部に蝶番などの継手を設け、該継手を介してフロント部が2つ折りされる請求項1、又は請求項2記載のツルが格納されるメガネ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明はツルをフロント部の背面に形成した凹溝に嵌って格納されるメガネに関するものである。

【背景技術】

【0002】

図4は一般的なメガネの外観を表しているが、同図に示すようにメガネはフロント部（

イ)と2本のツル(ロ)、(ロ)から成り、ツル(ロ)、(ロ)は該フロント部(イ)の両側に取付けられている。メガネを顔に掛ける場合には同図のように2本のツル(ロ)、(ロ)は開かれるが、顔から外されると該ツル(ロ)、(ロ)は折畳まれる。

【0003】

フロント部(イ)は両リム(ハ)、(ハ)を連結部材(ニ)にて連結して構成され、リム(ハ)、(ハ)にはレンズ(ホ)、(ホ)が嵌っている。そして、両側には概略L形をしたヨロイ(ヘ)、(ヘ)がロウ付けされ、このヨロイ(ヘ)、(ヘ)に蝶番(ト)、(ト)を介して上記ツル(ロ)、(ロ)が取付けられ、従って該ツル(ロ)、(ロ)は折畳まれる。ツル(ロ)、(ロ)を連結する継手は上記蝶番(ト)、(ト)以外にも色々あるが、基本的には折畳み出来る構造と成っている。

10

【0004】

折畳まれたツル(ロ)、(ロ)はフロント部(イ)の背面側(裏面側)に重なり、携帯する時にはケースに收容することが出来る。しかし、同図に示す従来のメガネの場合、ツル(ロ)、(ロ)を折畳んだ状態でもその厚さはある程度の寸法があり、薄いケースに收容することは出来ない。特に、老眼鏡などは新聞や雑誌を読む際にのみ着用する為にケースに入れて携帯する場合が多いことから、嵩張らないようにコンパクトなメガネとすることが要求されるが、従来のメガネではケースに收容しても嵩張ることから、スーツのポケットに入れて携帯することは不便を感じる。

【0005】

特開2002-182163号に係る「折畳式眼鏡」は、ゴーグル部は中央のブリッジ部で二つ折り可能であり、各つる部は、ゴーグル部の両端に折畳み自在に設けられた第1つる部とそれに連結される第2つる部とから構成され、折畳む際にレンズに傷を付けないようにしている。

20

そこで、第1、第2つる部の夫々には長手方向に沿って長孔が形成されており、第1つる部の長孔の前方端はレンズ枠の外側端部の近くに位置するように設定され、第1つる部の後方端は第2つる部の長孔に摺動可能に且つ抜け止め状態に收容保持され、第2つる部の前方端は第1つる部の長孔に対して内側から外側へ屈曲して挿入されると共に摺動可能に且つ抜け止め状態に保持されている。

【0006】

第3061421号に係る「折畳み眼鏡枠」は、レンズ枠とブリッジの両端とは内側に畳めるようにヒンジで繋がれ、レンズ枠と第一ツルも内側に畳めるようにヒンジで繋がれている。第一ツルには、その内側に嵌合溝が形成され、第一ツルの末端の内側に第二ツルの先端が嵌まり合いプランジャー形ピンにより連結されている。プランジャー形ピンは、筒体の下端にピンが固設され、筒体の内部にはスプリングと断面凸形の可動ピンとが順次装入され、筒体の上部は外径を絞って可動ピンの台座部分を抜け止め部としている。

30

【0007】

このように、コンパクトに折畳んでケースに收容することが出来るメガネは色々存在しているが、十分なコンパクト化は実現されていない。

【特許文献1】特開2002-182163号に係る「折畳式眼鏡」

【特許文献2】第3061421号に係る「折畳み眼鏡枠」

40

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0008】

このように、折畳むことでコンパクト化することで携帯し易くしたメガネが色々知られている。しかし、フロント部を2つ折りするならばその厚さは2倍に成ってしまう。ツルを2つ折りした場合も同じである。本発明が解決しようとする課題はこの問題点であり、メガネを外してツルを折畳む場合、厚さが大きくならないようにツルがフロント部に形成した凹溝に格納されるメガネを提供する。

【課題を解決するための手段】

【0009】

50

本発明に係るメガネは、基本形態は従来と同じくフロント部を両ツルから成り、ツルはフロント部の両側に継手を介して取付けられ、メガネを外すならばツルは折畳むことが出来る。そして、フロント部の背面には凹溝が形成され、この凹溝に折畳まれたツルが嵌合して格納される。従って、折畳まれたツルはフロント部背面から殆ど突出しないように格納される。ここで、ツルが折畳み出来るように連結される継手構造は特に限定されず、又、ツルの形状の任意である。そして、凹溝に嵌ったツルを該凹溝から引出して開くことが出来るように、ツマミ手段を設けている。

【発明の効果】

【0010】

本発明に係るメガネは一般には老眼鏡が対象となるが、メガネを顔から外してツルを折畳むならば、該ツルはフロント部の背面（裏面）に形成している凹溝に嵌って格納される。従って、折畳まれたツルはフロント部の背面に重なり合うことなく、ツルが凹溝に嵌ることでフロント部の厚さとなり、収容されるケースは非常に薄くてコンパクト化され、スーツのポケットに入れて携帯することが出来る。そして、折畳まれたツルはフロント部の背面から突出しない為に、不用意に放置されたメガネが踏まれても、ツルが折れたり継手が損傷することはない。

【図面の簡単な説明】

【0011】

【図1】本発明に係るツルが格納されるメガネの外観図。

【図2】ツルを折畳んだ状態でのフロント部の背面図。

【図3】図2のA-A断面拡大図。

【図4】従来の一一般的なメガネの外観図。

【発明を実施するための形態】

【0012】

図1は本発明に係るメガネを示す実施例であり、フロント部1の両側にはツル2，2が折畳み出来るように取付けられている。該メガネを掛ける場合には、同図に示すようにツル2，2を開いた状態で着用するが、ケースに収容する際には該ツル2，2は折畳まれる。

【0013】

同図に示すフロント部1及びツル2，2の形状は1具体例に過ぎないが、基本的には老眼鏡が対象となり、ツル2，2はコ形を成し、その長さは短くて耳に係止することなく、顔の側面を押圧することで該メガネを安定して着用することが出来る。その為に該ツル2，2は撓み変形することで弾性変形に伴う適度な押圧力が顔の側面に作用するようになる。

【0014】

フロント部1は樹脂の成形品であり、連結部3の両側にはリム4，4が形成され、リム4，4にはレンズが嵌っている。そして、フロント部1を支える為に鼻の両脇に当る鼻当てパット5，5がリム4，4の中央側に一体的に形成されている。すなわち、樹脂製のフロント部である為に、連結部1、両リム4，4、及び鼻当てパット5，5は射出成形によって一体的に形成される。勿論、該フロント部1は必ずしも樹脂の射出成形品に限るものではなく、樹脂製板を削り出して加工することもある。

【0015】

ところで、上記ツル2，2はフロント部1の両側に取付けられているが、継手を介して折畳まれる。この場合、フロント部1の背面（裏面）には凹溝が形成されていて、折畳まれたツル2，2は該凹溝に嵌って格納される。従来メガネの場合、折畳まれたツルはフロント部の背面に重なり合うように成るが、本発明では凹溝に嵌ってしまい、フロント部1の厚さ内に収まる。

【0016】

図2はフロント部1の背面を示しているが、ツル2は凹溝6に嵌っている。その為に、フロント部1を形成するリム4の背面には凹溝6が形成され、その為に、ツル2はリム4

10

20

30

40

50

とほぼ同じコ形形状をしている。継手7, 7はリム4の外側に埋着され、概略コ形のツル4の基端は該継手7, 7に固定されている。ここで、継手7はリム4の背面から突出しないように埋着されて、ツル2の折畳み操作を可能としている。

【0017】

図3は図2のA-A断面拡大図を示しているように、凹溝6にツル2が嵌り、該ツル2は背面8からはみ出さないように成っている。勿論、僅かにはみ出す場合には何ら差し支えないが、大きくはみ出すことがないように凹溝6の深さはツル2の太さとしている。

【0018】

このように、ツル2, 2を折畳むことで背面8に形成した凹溝6, 6に嵌るが、メガネを掛ける際にはツル2, 2を凹溝6, 6から取出して開くことが必要となる。そこで、ツル2, 2の先端部に柔らかいツマミテープを取付け、このツマミテープにて凹溝6, 6に収容されているツル2, 2が引き出される。勿論、ツマミテープに限るものではないが、テープであれ柔軟性があることから凹溝6からはみ出していても何ら問題はなく、ツル2, 2の折畳みにも支障を来たさない。

【0019】

本発明のメガネはツル2, 2を凹溝6, 6に収容することでコンパクト化し、収容ケースの厚さはフロント部1が入る大きさでよい。一方、本発明ではツル2, 2を背面8に形成した凹溝6, 6に収容した状態で、さらにフロント部1を2つ折り出来る構造とすることも出来る。この場合、連結部3の中央に蝶番などの継手を取付けて該フロント部1は折畳まれる。

【0020】

ところで、蝶番継手を連結部3の背面側に取付けて正面からの外観が損なわれないようにすると共に、折畳み方向は内側とすることが出来る。正面側に折畳むことが出来ないようにすることで、メガネを掛ける際にツル2, 2を外方向へ開こうとする押圧力が作用してもフロント部1が折畳まれることはない。そして、凹溝6, 6にツル2, 2が嵌っていることでフロント部1が内側（背面側）に折畳まれても該ツル2, 2が邪魔になることはない。

【0021】

図1に示すメガネのフロント部1は樹脂製であるが、その材質は限定しない。例えばアルミ製とすることも出来、この場合には背面8に設けられる凹溝6は一般に切削にて加工される。又、ツル2の形状は概略コ形とする場合に限るものではなく、概略L形とするなど、リム4の形状に沿ったものと成る。そして、ツル2の材質は顔側面に適度な押圧力が作用するように撓み変形（弾性変形）することが出来るものが用いられる。

【符号の説明】

【0022】

- 1 フロント部
- 2 ツル
- 3 連結部
- 4 リム
- 5 鼻当てパット
- 6 凹溝
- 7 継手
- 8 背面

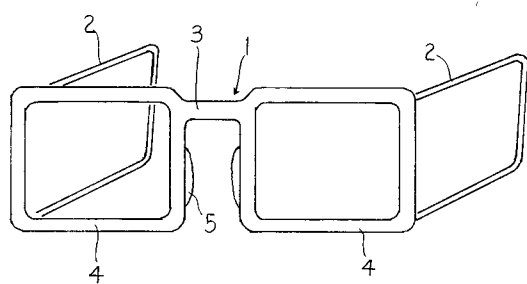
10

20

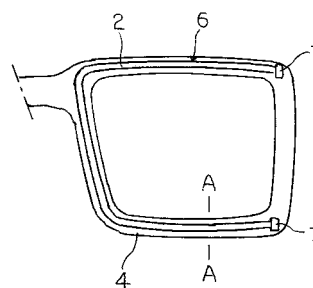
30

40

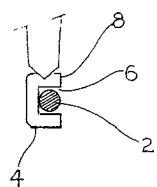
【図 1】



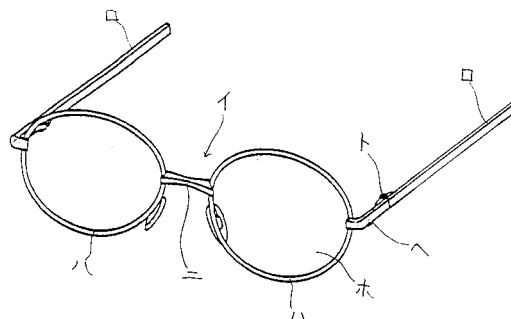
【図 2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

- (56)参考文献 実開平1-4417 (JP, U)
特開平1-269914 (JP, A)
特開2003-307712 (JP, A)
特開2001-249307 (JP, A)
特開2004-109741 (JP, A)
実開平1-17518 (JP, U)
登録実用新案第3138469 (JP, U)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
G02C 5/14